

| | | | | | | |
|-----|------------------------------|----|--------------|----------|------------|-----|
| 陳 情 | 受 理 番 号 | 13 | 受 理 年 月 日 | 令和7年9月3日 | 付 託 委員会 | 総 務 |
| 件 名 | 多様な性を尊重し差別禁止を明文化した条例制定を求める陳情 | | | | | |

みだしの件について、別紙のとおり陳情いたしますので、よろしくお願いいたします。

多様な性を尊重し差別禁止を明文化した条例制定を求める（陳情） 陳情の趣旨

近年、全国の自治体において、LGBTQ+を含む多様な性の在り方を尊重し、差別禁止を明文化した条例が制定されています。性の多様性を理解し、差別や偏見をなくすことは、市民が安心して暮らせる社会の基盤です。

那覇市は2015年に「レインボーなは宣言」を行い、多様な人々が尊重される社会の実現を掲げました。さらに2016年にパートナーシップ制度を導入し、2022年にはパートナーシップ・ファミリーシップ制度として拡充するなどしてきました。また、なは女性センターの相談サービス「ダイヤルうない」において性の多様性に関する相談を受け付け、教職員への初任者研修や中堅教諭等資質向上研修において性の多様性に関する講義を毎年実施するなど、具体的な取り組みが行われています。

しかし、これらの取り組みは性別や性的指向・性自認を理由とした差別を禁止するうえで法的拘束力を持つものではなく、宣言から10年が経過した今なお、2025年の那覇市議会議員選挙、参議院議員選挙において那覇市内で性的少数者に関するヘイトスピーチが公然と行われるなど、当事者への差別が抑止できていません。

昨今、全国的に根拠のないデマや偏見が広がり、当事者やその家族は生活の中で深刻な不安や孤立を強いられています。国際観光都市である那覇市が、この課題を放置することは、市民の人権だけでなく国際的な信頼にも関わります。

条例制定にあたっては、必ず当事者の意見を反映し、「暮らしが変わった」と実感できる実効性ある内容とすることを強く求めます。

- 多様な性を尊重する条例を早期に制定してください。
- 条文において「性別、性的指向、性自認を理由とする差別の禁止」を盛り込んでください。

陳情の理由

1. 性的少数者に対する差別や偏見により、いじめ、不登校、就労困難、入居拒否、自殺など深刻な課題が生じています。
2. 全国で条例制定の動きが広がっており、差別解消の仕組みが整いつつあります。
3. 那覇市は2015年に「レインボーなは宣言」を行い、性の多様性の尊重に取り組んでいますが、10年を経ても差別禁止を明記した条例がなく、選挙を利用した当事者へのヘイトスピーチが行われるなど、宣言の実効性が担保されていません。
4. 議員の公約として繰り返し掲げられてきたにも関わらず、実現されていない現状は、市民への信頼を損なう恐れがあります。
5. 昨今、根拠のないデマが広がり、当事者や家族は深刻な不安を抱えています。条例は市民を守り、正しい理解を広めるための拠り所となります。
6. 那覇市は国際観光都市であり、特に台湾から多くの来訪者を受け入れています。台湾ではアジアで初めて結婚の平等、いわゆる同性婚を実現しており、那覇市が多様性を尊重する条例を制定することは国際的な信頼性を高めることにつながります。
7. 形式的な条例ではなく、当事者の意見を反映し、市民が暮らしの中で「変わった」と実感できる実効性のある条例とすることが求められています。